

# 総務委員会委員長を拝命して

川崎地質（株）取締役執行役員 北日本支社長  
太田 史朗



この度、前任の高橋委員長の御退任に伴い、総務委員長という大役を拝命いたしました。

一昨年発行の大地 54 号では、技術副委員長就任にあたり私の生い立ちをご紹介させて頂きましたが、今回は総務委員長就任の御報告をさせていただきます。

技術委員在任中は、地質調査技士の検定・更新に関する行事を主たるものとして、協会員の皆様、また、技術委員会の委員各位には大変お世話になりました。技術副委員長としての在任はわずか一年間で、不慣れなまま新田委員長や先輩委員に頼り切りとなってしまう、申し訳ない思いで一杯です。この場をお借りしてお礼とお詫びを申し上げます。

今後は、総務委員長の職責を、高橋理事長、奥山副理事長、新田技術委員長、熊谷広報委員長をはじめとする諸先輩のご助言を頂きながら、個性豊かな総務委員メンバーとともに、本協会そして地質調査業の発展のため、大変、微力ではありますが尽力させて頂きたいと思えます。どうか、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

総務委員会の主な役割は、協会の主たる行事である総会、臨時総会等の運営を行うことです。委員長の責務はその統括ですが、現在のところ、先輩委員や東海林局長をはじめ事務局の方々の多大なサポートを頂き何とか対応している次第です。早急にこの状況を卒業し、『協会員としてのメリットがわかるよう提示し活動する』ことを目標とし活動してゆく所存です。

委員長就任の折、高橋理事長からボーリングオペレータの技術伝承・地位向上のための取り組み、そして、協会ホームページの充実による活動内容の周知・アピールなどを、総務委員会の新たな活動とするよう指示を受けました。まだまだ道半ばの状況ですが、高橋理事長在任中には形ある成果が得られるよう各委員及び事務局の協力を得ながら対応したいと考えております。

最後に、東北地方は今年3月で震災から5年が経過し、震災集中復興期間から復興・創生期間に移行します。今後、復旧・復興に係るハード型事業が一段と縮小し、我々地質調査業を取り巻く環境は

.....

極めて厳しくなると想定されますが、一方で、本年度からいわゆる「担い手3法」が本格運用され、建設業や建設関連業が持続するための環境整備も進んでいます。

現時点では、まだまだ、先行き不透明な状況ではありますが、個々の技術者が、地形・地質・地盤・地下水のプロという自負とプライドを持ち、経営者が上記の逆風と追い風をうまく受け止めることが出来れば、必ずや、我々地質調査業の活路や方向性は見いだせると確信しております。

総務委員会としては、上記を踏まえ、東北地質調査業協会そして協会に所属する会員の皆様の発展を支えるべく、会員の皆様方に満足して頂けるような活動を行って行きたいと考えていますので、皆様のご指導、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。